

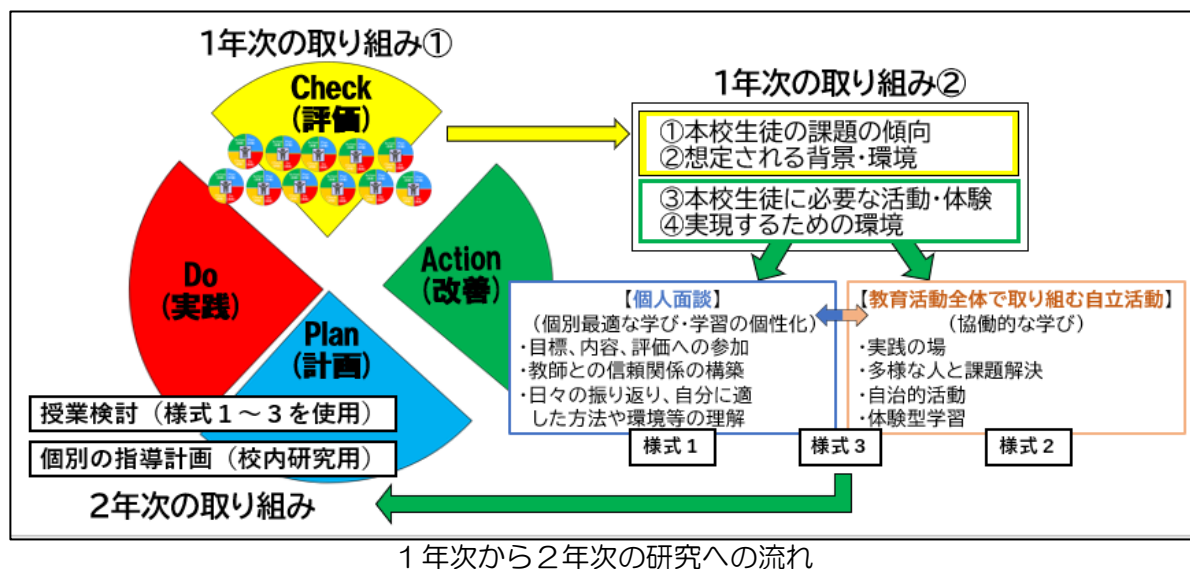
2年次研究

1 研究の内容と方法

1年次の研究から、教科別の指導が中心の本校においても職員が連携して生徒を理解し、指導に当たることによって生徒の成長につながることが改めて分かった。

しかし、生徒の「今」と向き合い、生徒と共に「未来」につなげるためには、教師の指導だけでなく、生徒自身が「日々の学習や生活をよりよいものにしよう」、「自らの課題や困難を主体的に改善・克服しよう」という意識や努力が必要である。そのような力を習得させるためには職員間の連携を土台として、生徒が主体となって学ぶための効果的な指導について検証する必要がある。

1年次の研究では、全事例から「本校生徒の課題の傾向」、「想定される背景・環境」についてまとめ、それらを基に、「本校生徒に必要な活動・体験」、「実現するための環境」について職員から意見やアイデアを集約した。また、「本校生徒に必要な活動・体験」の内容を「個」に関することを「個別最適な学び」、「人との関わり」に関することを「協働的な学び」として整理した。



1年次から2年次の研究への流れ

2年次は、引き続き職員間の連携を軸に自立活動について事例研究を行うこととし、そこでは自立活動の目標を設定した後に、その目標の達成に向けて「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点で指導内容・方法、指導の場（指導者）を設定できるよう「個別の指導計画（校内研究用）」を作成した。それによって、「個」の学びを「協働」の場面で生かしたり、「協働」の場で学んだことを「個」の場面で深めたりしながら自立活動の目標を達成できるよう、実践検証を行う。

また、1年次に本校職員で話し合った「本校生徒に必要な活動・体験」を「個に関すること（個別最適な学び）」と「人との関わりに関すること（協働的な学び）」に整理したが、それをワークシート形式に再整理し、「個別最適な学び」に関する指導を「様式1」、「協働的な学び」に関する指導を「様式2」として作成した。そうすることで、担当している教科等が違って同じ様式を使って「本校生徒に必要な活動・

体験」を取り入れた授業について検討し、実践、評価できるよう計画した。その際、可能な限り事例研究の対象生徒に関わる授業について計画、実施、評価するようにし、事例研究で作成した「**個別の指導計画**（校内研究用）」における「**個別最適な学び**」と「**協働的な学び**」の各場面の評価に反映できるようにした。

そして、それらの取組がどうであったか、研究の内容や方法について職員からアンケートをとり2年間の研究のまとめにつなげることにした。

2年次の主な取組

（１）自立活動について事例研究を通じた実践検証

①「**個別の指導計画**（校内研究用）」の作成と実践

②授業検討「**個別最適な学び**（様式1）」と「**協働的な学び**（様式2）」

（２）校内研究に関するアンケート

個別の指導計画(校内研究用)

生徒名： 年 組

＜実験授業－指導すべき課題の整理＞ ※各教科等の学びを垣間見ているものは何か「指導の対象」を焦点化
 【学習上、生活上の困難】 【指導要領】

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選定された項目	健康の保持	心身の安定	人間関係の形成	環境の把握	適応の能力	コミュニケーション
①生活リズムの形成に努めること ②健康の保持に努めること ③生活習慣の形成に努めること ④健康の特性の理解に努めること ⑤健康の維持・改善に努めること	①健康の安定に努めること ②心身の安定に努めること ③健康による学習意欲の向上に努めること ④健康の特性の理解に努めること ⑤健康の維持・改善に努めること	①得意・不得意の把握に努めること ②得意・不得意の把握に努めること ③得意・不得意の把握に努めること ④得意・不得意の把握に努めること ⑤得意・不得意の把握に努めること	①得意・不得意の把握に努めること ②得意・不得意の把握に努めること ③得意・不得意の把握に努めること ④得意・不得意の把握に努めること ⑤得意・不得意の把握に努めること	①得意・不得意の把握に努めること ②得意・不得意の把握に努めること ③得意・不得意の把握に努めること ④得意・不得意の把握に努めること ⑤得意・不得意の把握に努めること	①得意・不得意の把握に努めること ②得意・不得意の把握に努めること ③得意・不得意の把握に努めること ④得意・不得意の把握に努めること ⑤得意・不得意の把握に努めること	①得意・不得意の把握に努めること ②得意・不得意の把握に努めること ③得意・不得意の把握に努めること ④得意・不得意の把握に努めること ⑤得意・不得意の把握に努めること

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞ ※見通しを振り返り、自己分析をする場と、実践の場を設定

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）
指導内容（指導事項）		
指導方法（手立て）		
指導の場		

様式1
個人面談

様式2
教育活動全体で取り組む自立活動

1. 対象生徒の自立活動の目標

2. 実施する日時

3. 主な留意点

4. 具体的な指導内容と指導の結果

個別最適な学び

往還

協働的な学び

1. 実施する期間（5～8月、10～2月） ※生徒の視点に立ち、十分に学べるよう時間を確保

2. 計画・実践・評価

3. 学習成果（道と学び） ※実効性のある学びの場を多様な人との関わりで実現する

4. 指導の場（どの場で行うか、教科等との関係）

5. 指導の場（どの場で行うか、教科等との関係）

6. 指導の場（どの場で行うか、教科等との関係）

7. 工夫や配慮すること（生徒の状況、興味・関心、指導の状況、関わり方、授業計画、指導計画、教材 など）

8. 他の関係者（指導者、関係者）との連携・協力

個別の指導計画（校内研究用）と様式1（個別最適な学び）、様式2（協働的な学び）の関係性

2 研究のスケジュール

(1) 2年次の研究は、以下の手順とサイクルで研究を進めた。

1. 各HRから、1名抽出する。
2. 複数で対象生徒の「個別の指導計画（校内研究用）」を作成。
※指導計画の作成については、指導目標を達成するために、個別最適な学び（「様式1」）の視点と協働的な学び（「様式2」）の視点で指導内容、指導方法、指導の場を設定する。
3. 「「様式1」個別最適な学び」と「「様式2」協働的な学び」の視点で各担当者が指導に当たる。
4. 指導の成果や生徒の変容等について情報を共有しながら、評価～改善～実践を繰り返す。
5. 前期・後期に個別の指導計画（校内研究用）の評価を行う。後期については、指導を通しての成果と課題についてまとめる。

(2) 年間のスケジュール

日程	形態	主な内容	備考
4月25日(月)	全体	・研究計画について、「個別の指導計画（校内研究用）」の配布	各学級、生徒1名を選出
5月6日(金)	学年	・「個別の指導計画（校内研究用）」の作成・検討	5月20日(金)前期目標提出
5月25日(水) 6月22日(水) 7月20日(水) 8月19日(木)		・授業検討～実践～評価 個別最適な学び（個人面談） 協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）	
8月31日(水)		・「個別の指導計画（校内研究用）」の評価、後期の目標等の設定	9月9日(金)指導計画提出
9月16日(金) 10月26日(水) 11月14日(月) 12月21日(水) 1月19日(木)		・授業検討～実践～評価 個別最適な学び（個人面談） 協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動） ・「個別の指導計画（校内研究用）」の評価	
2月15日(水)		・「個別の指導計画（校内研究用）」の評価 ・成果と課題についてまとめる	3学年2月17日(金)、1・2学年2月24日(金)後期評価提出
3月15日(水)	全体	・各学年等から実践報告、研究のまとめ	

3 取組の実際

(1) 自立活動について事例研究を通じた実践検証

1年次と同様、教員間の対話を中心に、自立活動について事例研究を通じた実践検証を行った。2年次は、個別の指導計画の作成、授業実践、評価、改善を行うという方法は変わらないが、1年次で行った校内研究に関するアンケートの意見を踏まえ、各学年3～4名抽出していた事例の対象生徒を各HR1名抽出すること、教務の個別の指導計画の作成と評価の時期（前期・後期）と連動させられるよう計画した。よって、1学年9クラス、2学年7クラス（前期と後期で対象生徒が変更になったクラスがあるため対象生徒は全8名）、3年生8クラスがそれぞれ事例生徒を抽出し、全25事例について各学年を中心に研究に取り組むことにした。

本項では、①「個別の指導計画（校内研究用）」の作成～実践～評価、②授業検討「個別最適な学び」と「協働的な学び」について、実践した事例について紹介する。また、①「個別の指導計画（校内研究用）」については、後期の取組に絞って紹介する（1年生：A～I、2年生：J～P、3年生：Q～X）。

① 個別の指導計画（校内研究用）の作成～実践～評価

個別の指導計画（校内研究用）については、以下の流れで作成した。

ア 実態把握～指導すべき課題の整理

生徒の実態の確認、背景要因について検討、中心的課題の選定

イ 自立活動の目標の設定

段階を考え、「今」指導（達成）すべき目標を設定。

ウ 指導目標を達成するために必要な項目の選定

自立活動の6区分27項目から、必要な項目を選ぶ。

エ 選定された項目を関連付け、具体的な指導内容、指導方法、指導の場を設定

「個別最適な学び（見通しや振り返り、自己分析の場）」と「協働的な学び（学習上又は生活上の困難さを改善・克服する実践の場）」の視点で設定する。その際、検討している職員のチームや学年団でどの指導の形態で指導を行うことが効果的かを考え、話し合い、作成する。

生徒名： 年 組

<実態把握～指導すべき課題の整理> ※各教科等の学びを把握しているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】	【指導要因】
	【中心的な課題】

<自立活動の目標> ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

<指導目標を達成するために必要な項目の選定>

選定された項目	読書の保持	心身の安定	人間関係の形成	環境の把握	読書の設定	コミュニケーション
11 読むの楽しさを知る 12 読むの楽しさを知る 13 読むの楽しさを知る 14 読むの楽しさを知る 15 読むの楽しさを知る 16 読むの楽しさを知る 17 読むの楽しさを知る 18 読むの楽しさを知る 19 読むの楽しさを知る 20 読むの楽しさを知る 21 読むの楽しさを知る 22 読むの楽しさを知る 23 読むの楽しさを知る 24 読むの楽しさを知る 25 読むの楽しさを知る 26 読むの楽しさを知る 27 読むの楽しさを知る	11 読書の楽しさを知る 12 読書の楽しさを知る 13 読書の楽しさを知る 14 読書の楽しさを知る 15 読書の楽しさを知る 16 読書の楽しさを知る 17 読書の楽しさを知る 18 読書の楽しさを知る 19 読書の楽しさを知る 20 読書の楽しさを知る 21 読書の楽しさを知る 22 読書の楽しさを知る 23 読書の楽しさを知る 24 読書の楽しさを知る 25 読書の楽しさを知る 26 読書の楽しさを知る 27 読書の楽しさを知る	11 読書の楽しさを知る 12 読書の楽しさを知る 13 読書の楽しさを知る 14 読書の楽しさを知る 15 読書の楽しさを知る 16 読書の楽しさを知る 17 読書の楽しさを知る 18 読書の楽しさを知る 19 読書の楽しさを知る 20 読書の楽しさを知る 21 読書の楽しさを知る 22 読書の楽しさを知る 23 読書の楽しさを知る 24 読書の楽しさを知る 25 読書の楽しさを知る 26 読書の楽しさを知る 27 読書の楽しさを知る	11 読書の楽しさを知る 12 読書の楽しさを知る 13 読書の楽しさを知る 14 読書の楽しさを知る 15 読書の楽しさを知る 16 読書の楽しさを知る 17 読書の楽しさを知る 18 読書の楽しさを知る 19 読書の楽しさを知る 20 読書の楽しさを知る 21 読書の楽しさを知る 22 読書の楽しさを知る 23 読書の楽しさを知る 24 読書の楽しさを知る 25 読書の楽しさを知る 26 読書の楽しさを知る 27 読書の楽しさを知る	11 読書の楽しさを知る 12 読書の楽しさを知る 13 読書の楽しさを知る 14 読書の楽しさを知る 15 読書の楽しさを知る 16 読書の楽しさを知る 17 読書の楽しさを知る 18 読書の楽しさを知る 19 読書の楽しさを知る 20 読書の楽しさを知る 21 読書の楽しさを知る 22 読書の楽しさを知る 23 読書の楽しさを知る 24 読書の楽しさを知る 25 読書の楽しさを知る 26 読書の楽しさを知る 27 読書の楽しさを知る	11 読書の楽しさを知る 12 読書の楽しさを知る 13 読書の楽しさを知る 14 読書の楽しさを知る 15 読書の楽しさを知る 16 読書の楽しさを知る 17 読書の楽しさを知る 18 読書の楽しさを知る 19 読書の楽しさを知る 20 読書の楽しさを知る 21 読書の楽しさを知る 22 読書の楽しさを知る 23 読書の楽しさを知る 24 読書の楽しさを知る 25 読書の楽しさを知る 26 読書の楽しさを知る 27 読書の楽しさを知る	

<各指導の場における指導内容・方法の設定> ※見通しや振り返り、自己分析をする場と、実践の場を設定

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）
指導内容（目指す姿）		
指導方法（手立て）		
指導の結果		
目標の評価		

ア 実態把握～指導すべき課題の整理

イ 自立活動の目標の設定

ウ 指導目標を達成するために必要な項目の選定

エ 選定された項目を関連付け、具体的な指導内容、指導方法、指導の場を設定

個別最適な学び

（教師視点：個人面談）

自立活動の目標を達成するために、目標を立てたり、振り返ったり、自己理解を進めたりする場における指導内容や指導方法について設定

協働的な学び

（教師視点：教育活動全体で取り組む自立活動）

自立活動の目標を達成するために、本人が立てた目標を達成したり、人との関わり合いから深めたりするなど、学習上又は生活上の困難さを改善・克服する実践の場として、指導内容や指導方法について設定

1 学年

対象生徒：A～I 計9名

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：1年生 A

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 ・失敗をすると先に進めなくなり、その場で学習活動が中断してしまう。	【背景要因】 ・生育歴 ・自尊感情の低さ ・こだわり 【中心的な課題】 ・失敗を乗り越える経験 ・自分から支援を求める
--	---

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

・失敗しても、あきらめずに最後まで取り組むことができる 自立活動の目標→(自分の言動が相手に与える印象を知り、自制しようと努力をすることができる)
--

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(1) 情緒の安定に関すること (2) 状況の理解と変化への対応に関すること (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること				

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び （教育活動全体で取り組む自立活動）
	LHR	各教科（作業学習）
指導内容 （目指す姿）	苦手な学習でも、伏せることなく取り組むことができる。	製作過程で失敗しても、支援を受けながら最後までやり通すことができる。
指導方法 （手立て）	様子に気を配りながら、支援が必要な場面で自ら気持ちを述べやすい環境を設定する。	助けを借りながら乗り越えられた時には、褒めることで意識の向上を図って次に繋げる。
指導の結果	自分の気持ちを言葉で表現することはまだ増えていないが、伏せてしまうことは減ってきた。	作業では、失敗を繰り返さないように具体的に手順を示すことで乗り越えられるようになってきた。
目標の評価	失敗をしても、教師の言葉がけ等により次の行動に移す経験を積むことができた。 伏せる時間が減り、活動に参加しようとする姿勢が見られるようになってきた。本人なりに自制心を持ち、行動を改めようとしている様子がうかがえる。 度が過ぎた言動があった際は、指導を受けるとその場では改善することができる。 基本的に優しく相手を思いやることができる性格なため、長所を褒めながら課題となる点の支援を継続していく。	

○成果

- ・面談等を通し、自分の気持ちを表出できるようになってきた。
- ・伏せる（寝る）時間が減り、活動に継続して参加できるようになってきた。教師の言葉がけにもスムーズに応じられる機会が増えた。

○課題

- ・苦手、若しくは様々な理由から気持ちが向かない授業の際、机に伏せて逃げる傾向にある。
- ・体力が無いため、午前の作業学習で集中して取り組むと、午後の授業は疲れが出て寝てしまうことがある。

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：1年生 B

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 ・自己肯定感が低い ・人前での発言に緊張が強い ・清潔、身だしなみに課題ある ・遅刻をするときがある ・必要な報告・連絡・相談が難しい	【背景要因】 ・家庭環境（父子家庭） ・幼少期の経験 ・生活リズム、生活習慣が身についていない ・経験不足 ・父との関係
	【中心的な課題】 ・心理的な安定 ・人間関係の形成

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

・日々の学校生活を通し、成功体験をより多く積み重ね、自己に肯定的な感情を高めていくことができる。

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	(3)自己の理解と行動の調整に関する事			

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）
	LHR	各教科等（作業学習）
指導内容（目指す姿）	自己の理解と自尊感情の向上。	できることを増やし、自信を持って作業に取り組むことができる。
指導方法（手立て）	・定期的に自尊感情のチェックリストを行う。 ・面談を通して、自己理解を促す。	・成功体験をより多く積み重ねることができるよう、作業時の評価を、その都度具体的に行う。
指導の結果	・自尊感情については少しずつ向上傾向。 ・面談では自己理解を促すアプローチを都度おこなうことができた。	・チャレンジする気持ちがある。作業能力は高い。 ・表出しないため、本人の意志が測りきれない。 ・質問、報告、連絡はできるようになった。
目標の評価	・困ったことを相談することができるようになってきた。 ・自己を肯定的に捉える取組をLHRや作業学習で行う中で、できること、得意なことを増やすことができた。	

○成果

- 様々な経験の中で、できること、得意なことを増やすことができた。
- 「得意なこと」を 10 個挙げられるようになった。
- 報告、連絡、相談ができるようになってきた。

○課題

- コミュニケーション
- 家庭環境
- 登校状況
- 忘れ物

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：1年生 C

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 - 相手の気持ちを考えた言葉の伝え方 - 自分のできないことに対して態度にでてしまう	【背景要因】 - 自信がない - 周りには、強いだと思ってもらいたい - 自分をみてもらいたい
	【中心的な課題】 人のコミュニケーション能力の向上

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

- 友達（相手）の気持ちを考えて対話することができる。 - 自分本位にならないで行動する。
--

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(1) 情緒の安定に関すること (2) 状況の理解と変化への対応に関すること	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること (2) 他者の意図や感情の理解に関すること (3) 自己の理解と行動の調整に関すること (4) 集団への参加の基礎に関すること	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること		(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2) 言語の受容と表出に関すること (3) 言語の形成と活用に関すること (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談） ← 協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）		
	・ホームルーム、学年等	作業学習	社会生活、情報、職業など
指導内容 （目指す姿）	- 普段の学校生活を振り返って考える時間の設定。 - 学年で交流する場を作り、話し合いに参加し、友達と協力する大切さやコミュニケーション方法を学ぶ。	- 周りの行動を確認し、自分の役割に取り組む力を身に付ける。 - 自分の役割に自覚をもち行動する力を身に付ける。	- グループワークなどで自分の意見の他に友達の意見を取り入れて話し合いに参加する力を身に付ける。 - 集団で行動する力を身に付ける。
指導方法 （手立て）	- 個人面談。 - 学年集会。 - 学校祭など。	- 作業学習。 - 製品の作成。	- タブレットなどで情報を伝え合う。 - 直接グループをつくり話し合う。
指導の結果	個別懇談などを行い自分自身の学校生活についてまだ足りない部分もあるが、考える場面が増えた。	自己中心的な部分が見られるが、自分の役割に取り組む姿勢が見られる場面が増えた。	- グループの中で自分の意見を出すことができてきた。 - 集団の中に入って行動できるようになってきた。

	・学年全体で行事などを行うことで少しずつ友達の輪に入ることができるようになってきた。	・諦めそうになってしまふことがあるが、言葉かけなどを行うことで行動できるようになってきた。	
目標の評価	・自分の意見を優先してしまうこともまだまだあるが、本人に伝えることで考え直して話しができるようになってきた。 ・自分本位になりがちではあるが、相手の意見も取り入れられるようになってきた。		

○成果

- ・個別に懇談を行うと、自分の考えや悩みなどを伝えられるようになってきた。
- ・集団の中に入ることが苦手であったが、学年集会や行事などで徐々に慣れたことで、輪の中に入って意見を伝えることができるようになってきた。
- ・教師への甘えについて、中学生とは異なり、高校の年齢では認められないこともあるということが分かってきた。

○課題

- ・友達と話す機会が多くなってきたが、同時に自分の意見を伝えすぎてしまうことが多くなってきたため、相手の気持ちをしっかりと考えられるように引き続き様子を見ていくことが必要だと思う。
- ・生徒の中では目立つ存在であるため、周りの生徒に影響力もあるということを自覚することも必要ではないか。

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：1年生 D

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 ・手先を使う細かい作業が苦手である。 ・自分から声を掛けられないことがある。 ・時間の見通しを立てることが苦手である。 ・新しい事をクラスの全体指示で説明すると、理解に時間がかかったり、理解が困難だったりするので、再度個別に確認が必要である。	【背景要因】 ・手指機能の不器用さがある。 ・語彙力が不足している。 ・全体指示で少し長い説明では理解できない。 【中心的な課題】 ・様々な手作業を繰り返し経験し、手指機能の向上を目指す。 ・疑問や質問を積極的に支援者や友達にできる。
--	--

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

・日常生活に必要な基本的動作を繰り返し学習しながら、手指機能の向上を目指す。 ・自分から質問したり、分からないことを尋ねたりしながら、状況に応じたコミュニケーション能力を身につける。
--

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
			(2) 他者の意図や感情の理解に関する こと (3) 自己の理解と行動の調整に関する こと	(2) 感覚や認知の特性についての理解と 対応に関する こと (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況 についての把握と状況に 応じた行動に関する こと (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の 形成に関する こと	(3) 日常生活に必要な 基本的動作に関する こと (5) 作業に必要な動作と 円滑な遂行に関する こと	(3) 言語の形成と活用 に関する こと (4) コミュニケーション 手段の選択と活用 に関する こと (5) 状況に応じた コミュニケーションに 関する こと

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）	
	作業	作業・学校祭	LHR
指導内容 （目指す姿）	・繰り返し手作業がある活動を経験しながら、手指機能の向上を図る。 ・分からないことや困ったことを、すぐに支援者に尋ねることができる。	・友達と協力して後片付けや掃除をし、洗い物の拭き残しがないように取り組む。 ・様々な作業を行う中で、自分から材料や道具の有無を友達に尋ねることができる。	・色々な手作業を使う活動を友達と一緒に楽しく経験しながら、手指機能の向上を図る。 ・分からないことや困ったことを、自分から先生や近くの友達に尋ねることができる。
指導方法 （手立て）	・手作業を行う時に、どこに注目して作業するかを個別説明や見本でみせる。 ・活動のための説明を全体で行った時は、分からないところがあったら支援者に質問するよう個別に確認する。	・手先を使う細かい作業を繰り返し取り組み、練習を積み重ね、できる経験を増やす。 ・説明を全体で行った時は、分からないところがあったら支援者に質問するよう個別に確認する。 ・学校祭などの販売活動において、接客を通して様々な人とのコミュニケーションを経験し、積み重ねていく。	・手先を使う細かい作業を繰り返し取り組み、練習を積み重ね、できる経験を増やす。 ・活動を始められず困っているようであれば、具体的に何に困っているか言葉掛けする。

指導の結果	・ミシンの操作の向上や製菓作業（クレメ法）での成長が見られた。 →題材の設定の工夫、指導者を固定するなどによって	・学校祭での販売活動では入り口にて手指消毒やカゴ案内を行い、練習でいくつかのパターンを経験すると本番でもお客様に自ら声をかけたり角を渡したりと積極的にコミュニケーションを行っていた。	・ハサミを使ってカードを切り離す作業では丁寧に取り組むことができた。 ・教室清掃では活動が終わると自ら次の内容を教師に確認したり自ら友達に声をかけたりできた。
目標の評価	・本人に適した目標設定、題材設定などができたため、成長が見られた。 ・協働的な活動についても積極的に取り組むことができていた。		

○成果

- ・本人に合った題材の設定をし、定着するまで繰り返し行ったことで成長が見られた。また教員を固定することによって本人の混乱を少なくし、自主的に学習に取り組むことができたことでねらい通りの成果が見られた。
- ・他学年の先生に、専門的な技能を教えてもらう機会を設けたことでさらに成長することができた。
- ・他の生徒と題材が違うことで後ろ向きになるのでは？と心配していたが、本人が素直に受け入れてくれたことで継続して取り組むことができ、手立てとして確立することができた。
- ・コミュニケーションが取りやすいようグルーピングを工夫したことで生徒間の確認等が増え、コミュニケーションをとりながら作業などを行う様子が見られた。
- ・学校祭でのステージ発表では、普段関わりのすくない教師や他クラスの生徒と関わりながら練習に取り組むことができた。

○課題

- ・本人の実態として時間の経過によって忘れしまう傾向が見られるため、今後知識や技能の定着をどのように積み上げていくかどうか考える必要がある
- ・慣れた教師や友達以外とのやりとりを今後経験させて行く必要がある（自己表出ができる力を見に付ける）

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：1年生 E

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 ・全体での指示について理解できないことが多い。 ・忘れ物をすることが多い。 ・自分の興味のある事を一方的に話すことがある。	【背景要因】 ・経験の不足 ・記憶の保持 【中心的な課題】 心理的な安定、人間関係の形成、コミュニケーション
--	--

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

・指示されたことを理解して行動することができる。

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(2) 状況の理解と変化への対応に関すること (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(1) 他者とのかわりの基礎に関すること (4) 集団への参加の基礎に関すること			(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2) 言語の受容と表出に関すること (3) 言語の形成と活用に関すること (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）	
	LHR、社会生活	作業学習	
指導内容（目指す姿）	・指示をされたときに、自分から確認・質問をすることができる。	・指示をされたときに、自分から確認・質問をすることができる。	
指導方法（手立て）	・指示を理解しているか教師から確認をする。 ・指示されたことについて、メモをするよう促す。	・指示を理解しているか教師から確認をする。 ・指示されたことについて、メモをするよう促す。	
指導の結果	・全体に指示をした後に個別に確認し、復唱することで指示を理解して取り組むことができた。 ・周囲を見て対応できるようになった。	・席替えをし、近くに教師を配置する状況を作ったことで自分から確認する機会が少し増えた。	・音楽で全体指示を出した後に教師から個別で本人に指示内容を確認したときに「違います」と伝えるとき「どこですか教えてください」と質問することができた。

	・冬休み中、就労移行で評価をえた。 ・自身の将来を見据えて、コミュニケーションを積極的に取ることができている。	・教師から言葉がけをすることでメモをすることができた。自分からメモをすることも増えてきた。 ・前の指示の作業を継続していることがあり、改めて指示を伝えることで新たな作業に移ることができた。	・全体の話し合いでは、中に入って参加することができるようになってきた。 ・コミュニケーションを取ろうと努力し、とれるようになってきた。
目標の評価	・慣れた環境では質問をしたり、メモをとり分らない事を発信したりすることができた。 ・指示されたことがわからない場合などを口頭ではなく、目で訴える事がある。 ・全体指示がわからないことが多く、指示と異なる行動をとってしまうこともある。→個別の指示が必要。		

○成果

- ・環境作りが効果的だった。個別の確認をすることで、今すべきことを自身で確認することができた。
- ・慣れた教員に確認や質問をすることができた。
- ・勉強も努力している。
- ・体育でも忍耐強く走り続ける事ができる。
- ・努力することが成長に繋がっている。
- ・コミュニケーション力も伸び、成長した。

○課題

- ・寝てしまう、指示と違う事をしてしまう。
- ・口頭ではなく、目で訴える事がある。
- ・いい人過ぎで、自己犠牲にしたりする。自分の気持ち、意見を素直に伝えられるとよい。
- ・発信が少ない。自分から積極的になってほしい。
→克服するには、一般就労をめざした、指導をすべきでは。福祉に寄り添いすぎない指導。
- ・見通しを持った行動が必要。
→きまったルーティンがやりやすいのでは？

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：1年生 F

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 ・良好な友達関係を築きにくい。 ・思ったことをすぐ口にしてしまう。 ・自分に関係のないことでも、誰かが何かしていると気になってしまう。	【背景要因】 ・積極的に関わりすぎる。 ・不安な気持ちから、疑問に感じたことをすぐに解決したい。 ・動くものが気になる。
	【中心的な課題】 人間関係の形成、コミュニケーション、心理的な安定

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

・相手の立場や気持ちを考えた言動ができる。

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(1) 情緒の安定に関すること (2) 状況の理解と変化への対応に関すること	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること (3) 自己の理解と行動の調整に関すること (4) 集団への参加の基礎に関すること			(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談） LHR（学年 LHR）	協働的な学び （教育活動全体で取り組む自立活動） 作業学習や各教科の話し合い活動
指導内容 （目指す姿）	・一度考えてから、発言したり行動に移すことができる。	・一度考えてから、発言したり行動に移すことができる。
指導方法 （手立て）	・定期的な面談を行う。 ・話し合い活動の場を設け、間違いや問題が起こったときは、その都度修正する。	・話し合い活動の場を設け、相手の意見を聞いたり、自分の意見を伝えたりする。
指導の結果	・何でも思ったことを口にする場面は減った。しかし、まだ一言多いときはあるので相手の気持ちも考えられるように伝えていく。 ・意識付けは、出来た。面談の積み重ねで必要な事を習得してきていると思う。	・相手のことを考え発言したり、行動したりする場面が増えてきた。 ・話し合い活動では自分と違う他者の意見を尊重することができるようになってきた。 ・以前よりも一呼吸おき考えてから発言できるようになった。

目標の評価	・一度考え、相手の意見を聞いてから発言することが出来るようになった。 ・周囲に気を遣う事もできるようになった。しかし一言で全てが台無しになることが多い。
-------	---

○成果

- ・相手の気持ちを考えるようになってきた。
- ・周囲に人がいない方が集中できる。気になる情報が少ない方が良い。
- ・相手のことを考え発言したり、行動したりする場面が増えてきた。面談や繰り返し伝えることで効果がでてきたのでは。

○課題

- ・自己理解が進んでいない。プライドが高すぎる。
 - ・色々な教員から、同じ話をしてもらおうと良いのでは。
 - ・自身の持つ積極性を周囲から認められるように表現をすると良い。
 - ・自己理解とプライド?現実の自分と折り合いをつける。
 - ・スモールステップの提示
 - ・具体的な目標設定
 - ・可視化された目標があるとよいかも。
 - ・自分の意見をまげないことも。相手の意見を聞けるように、好かれる、かわいがられる人になれるように。
- 引き続き、面談を繰り返していく。

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：1年生 G

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 ・自分の気持ちを伝えられず抱え込んでしまい、疲れてくると体調に出る時がある。（腹痛・頭痛） ・初対面の人に対してネガティブな印象を持ってしまう時がある。 ・友達に合わせて自分の実力を発揮しきれない時がある。 ・友達を注意する際に言葉がきつくなってしまう。	【背景要因】 ・小さな町の小さな中学校から札幌に来たこと。 ・身近に多くの人がいる生活に慣れていないこと。 ・自己中心的なところがあること。
	【中心的な課題】 ・ひとりで抱え込まずに早い段階で相談する。 ・他者の気持ちを考えられるようになる。 ・場に応じた行動を自身で判断できるようになる。

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

・複数人いる状況でも、相手の考えや意見も聞きながら自分の考えを伝えることができる。 ・友達とのほど良い距離感や関わり方を、状況を見て考えたり判断したりすることができる。

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選定された項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(1) 情緒の安定に関する事 (2) 状況の理解と変化への対応に関する事	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事			(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談） ← 協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）	
	LHR	学校祭、学年 LHR
指導内容（目指す姿）	・友達とのほど良い距離感や関わり方を、状況を見て考えたり判断したりすることができる。	・複数人いる状況でも、相手の考えや意見も聞きながら自分の考えを伝えることができる。
指導方法（手立て）	・友達との距離感や相手の気持ちを理解できるように面談などを通じて個別に伝え理解を深める。	・自分の考えを伝えやすい雰囲気を作り、発表前に練習できる環境を整える。

指導の結果	・面談では自分の考えを述べるできるようになってきた。 ・誰とでも仲良くしようと思っていたが、自分に合う人を選ぶようになった	・教科では周りの雰囲気溶け込みコミュニケーションがとれるようになってきた。幼さは残っているが ・自分の意見を伝えようとする場面が見えてきた。	・現場実習では慣れてくると人との距離感が近くなりすぎる。 ・周りの人のことを気にしすぎる面もある。
目標の評価	・学校生活に慣れてきて自分の気持ちを整理して伝える場面が増えてきた。		

○成果

- ・周りの生徒とコミュニケーションをとれるようになり、自分の意見を伝えることができるようになってきた。

○課題

- ・幼さが残り、人との距離感が近すぎる時がある。

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：1年生 H

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 コミュニケーションを苦手としている。また、そのことを自覚している。 1学期を過ごし、徐々に環境に慣れ、自らの気付きで行動を起こすことができつつある。	【背景要因】 経験不足。自信がない。友人関係を築いた経験が乏しい。不安が強い。 【中心的な課題】 主体性、人間関係の形成
--	--

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

学級や委員会、学習活動（総合的な探究の時間）を通して、他者との関わりになれば、適切なコミュニケーションができる。

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(1)情緒の安定に関すること (2)状況の理解と変化への対応に関すること	(1)他者とのかかわりの基礎に関すること (2)他者の意図や感情の理解に関すること (3)自己の理解と行動の調整に関すること (4)集団への参加の基礎に関すること	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること		(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2)言語の受容と表出に関すること (3)言語の形成と活用に関すること (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）
	LHR 総合的な探究の時間	総合的な探究の時間
指導内容 （目指す姿）	自らの気持ちや考えを伝えることができる。	自らの気持ちや考えを伝えることができる。
指導方法 （手立て）	・ワークシステムの評価、LHR の個別面談の場面において、意思表示する機会を設定する。	・グループワーク、ワークシステム、インターンシップの協働の場面において、グループ内で意思表示する機会を設定する。
指導の結果	・関係性ができることで自ら発言できることが増えた。	・リーダー的な存在がいることで任せてしまいがちになり意思表示が見られない。

目標の評価	活動集団、学習活動を通して、他者との関わりになれ、コミュニケーションが広がりを見せているが、求める適切な行動につながらない部分もまだまだ見られる。不十分な実態把握であった可能性を感じる。認知機能を含め実態の再確認を踏まえ目標の設定し直しが必要と考える。
-------	--

○成果

- ・個別面談において、返答に時間を要するが自分の考えを伝えられるようになってきた。
- ・慣れた集団性では、発言する機会が増えてきた。
- ・友人とのコミュニケーションの取り方が良くなった
- ・自主的に行動しようとする場面が見られてきた。

○課題

- ・活動の集団が大きくなった場合、日頃と違う集団性になるとリーダー的存在に委ね、自発的行動にならなかった。
- ・これまでの本人への指導を通し、様子観察してきたが、本人の困難さに対しての実態把握が十分でなかったように感じている。認知機能の状況も考慮すべき点がある可能性も考え、実態把握をやり直すべきと考える。その上で、課題の整理をしなくてはならない。

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：1年生 Ⅰ

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 ・徐々に環境に慣れ、教師へ自分から話したり、生徒からの言葉掛けに反応できるようになってきたが、自分から生徒へ挨拶や言葉掛けをすることはまだ難しい。 ・話しかけられても声が出づらい。 ・自分の考えを言葉にするまで時間がかかる。 ・人間関係を上手く作れない。	【背景要因】 ・同じ中学校出身の同級生がいない。 ・環境に慣れるまで時間がかかる。 ・緊張感、不安感が強い。
	【中心的な課題】 ・環境への適応 ・主体性 ・人間関係の形成

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

・相手に聞こえる声で返事ができる。（前期から継続）

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(1) 情緒の安定に関すること (2) 状況の理解と変化への対応に関すること (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること (2) 他者の意図や感情の理解に関すること (3) 自己の理解と行動の調整に関すること (4) 集団への参加の基礎に関すること	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること		(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2) 言語の受容と表出に関すること (3) 言語の形成と活用に関すること (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び （教育活動全体で取り組む自立活動）
	LHR	LHR、総合的な探究の時間
指導内容 （目指す姿）	相手に聞こえる声で返事ができる。	相手に聞こえる声で返事ができる。
指導方法 （手立て）	・学校生活について心配や不安なことがないか聞き取りをする。 ・返事をするタイミングや声の大きさについて指導する。	・係活動や学級レク（LHR）やワークシステム（総探）等、生徒同士で協力しながら活動する機会を設ける。 ・生徒同士で関わり合えるよう、必要に応じて教師が間に入って働きかける。 ・返事をするタイミングや声の大きさについて適宜伝える。
指導の結果	環境に慣れ自分をのびのびだせるようになってくるにつれて返事がすぐできるようになってきた。	人間関係が広がり、自分から進んで行動できることが増えた。聞こえる声で発言、返事ができるようになってきた。

目標の評価	後期に入り返事ができるようになってきた。
-------	----------------------

○成果

- ・慣れてきて返事ができるようになってきたが、返事をする習慣がなかった
- ・人間関係が広がった。(剣玉、昭和歌謡曲)
- ・良い人柄で普通科では周りから信頼されている。

○課題

- ・人との距離感が近すぎる時がある
- ・慣れない環境にも対応できる力が必要
- ・学校祭で活躍したがグループ内で友達を作ることはできなかった。
- ・現場実習では疲れを態度に出してしまう時があった。
- ・自己評価が高くアドバイスを受け入れることができない時がある。

2 学年

対象生徒： J～P 計 7 名

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：2年生 J

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 ・「朝起きられない」という理由で朝から欠席する。 ・自信がなく、声が小さかったり、語尾に？がついたりする。また、自分で決められない。 ・マイナス発言が多く、やる気が感じられない。 ・消極的なため、目立ってはいないが、意外と状況に適した会話をするのが苦手である。（敬語を遣う場面でもため口になる、相手が会話の途中でも違う話題を話す。 など）	【背景要因】 ・生活のリズムの乱れ（昼寝、休日の引きこもり）や気持ちの緩み、登校へのモチベーションがなく起きられない。 ・自分の強みがわからず、自信が持てないため消極的になってしまう。 ・経験不足、自覚がない（中学時代の欠席日数が多いため、今の課題については指導された経験があまりないと思われる） 【中心的な課題】 ・自分の強みを理解し、自信を持つことが必要。 ・声の大きさ以外のコミュニケーションの課題については、指導された経験が少ないと思われるため、気が付かせることと練習が必要。
--	---

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

・生活のリズムを整え、毎日登校することができる。 ・適切な言葉遣いや声の大きさに返事することができる。
--

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選定された項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事 (4) 障害の特性の理解と生活習慣の調整に関する事	(3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事 (3) 自己の理解と行動の調整に関する事 (4) 集団への参加の基礎に関する事			(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事 (2) 言語の受容と表出に関する事 (3) 言語の形成と活用に関する事 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）		
	個別最適な学び（個人面談）	作業学習	学校行事
指導内容（目指す姿）	・生活のリズムを整え、毎日登校することができる。 ・適切な言葉遣いや声の大きさに返事することができる。	・適切な言葉遣いや声の大きさに返事することができる。	・生活のリズムを整え、毎日登校することができる。 ・適切な言葉遣いや声の大きさに返事することができる。
指導方法（手立て）	・卒業後の進路を踏まえて、毎日登校することや返事をする事の重要性について教師と一緒に考える。 ・登校の状況を教師と一緒に振り返る。 ・適切な返事ができているときは賞賛する。	・授業開始前に、働くときの適切な言葉遣いについて確認する。 ・適切な返事ができているときは賞賛する。	・責任を持って取り組めるよう、役割を与える。 ・適切な返事ができているときは賞賛する。

指導の結果	・バイトを調整するなど改善しようとする姿が見えた。 ・確認直後は、適切な言葉遣いや声の大きさに返事ができていた。	・確認直後は、適切な言葉遣いや声の大きさに返事ができていた。	・自分の役割に責任を持って最後まで取り組むことができていた。
目標の評価	・生活のリズムを整え、継続して登校することが増えてきた。 ・確認直後は、適切な言葉遣いや声の大きさに返事ができた。		

○成果

- ・できていることを賞賛したり、感謝される経験をしたりすることで、自信を持って活動する場面が増えた。
- ・学校生活に見通しを持ち、バイトを調整して学業を優先する等の行動が見られた。
- ・入学当初に比べると、自分から人と関わるが増えてきた。

○課題

- ・笑いながら自分の行動を振り返るなど、できないことが当たり前になっているような姿が見られた。

○今後に向けて

- ・なぜ改善しなければいけないのかや、改善したいという気持ちがあるのかを確認していく。
- ・自主的に活動できるよう、教師側がそのような場面を設定していく。できたときは、賞賛したり、感謝の言葉を伝えたりする。

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：2年生 K

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 ・配付されたプリントの定期的な整理整頓ができず、溜め込んでしまう。 ・ファイルや教科書のしまい方が乱れがち。 ・いろいろなことについて考えを持っているが、まとめることが苦手。 ・やらなければならないことが3つ以上になると、優先順位を付けて計画的に行動することが難しくなる。	【背景要因】 ・片付け方が分からない。習慣づいていない。 ・優先順位の付け方や取り組み方がマイペース。 ・改善する観点が見当違いなところがある。（相手からの指摘を受け入れにくい） 【中心的な課題】 ・片付け方が分からない。 ・集中力・体力不足
--	---

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

・情報を整理して、必要な行動を取ることができる。 ・場面や状況を見ながら、優先順位を考えて行動できる。
--

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(1)情緒の安定に関すること (2)状況の理解と変化への対応に関すること (3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(1)他者とのかわりの基礎に関すること (2)他者の意図や感情の理解に関すること (3)自己の理解と行動の調整に関すること (4)集団への参加の基礎に関すること	(1)保有する感覚の活用に関すること (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関すること (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること (5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること (3)日常生活に必要な基本的動作に関すること (4)身体の移動能力に関すること (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2)言語の受容と表出に関すること (3)言語の形成と活用に関すること (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）	
	LHR	作業学習、各教科	生徒会活動
指導内容（目指す姿）	・自分の棚を整理した状態を保つ。	・使用した道具を適切な場所に正しくしまう。	・配付されたプリントを都度ファイルに保管する。
指導方法（手立て）	・「どうしたらいいか」「どういう片付け方が自分にあっているか」など目指したい結果を確認し、そのためにひつような行動について面談を通して整理する。	・場面や状況を踏まえながら、何を優先して行動するかを都度、簡潔に確認する。活動後にその成果について振り返りを行う。	・期日がある提出物について内容と提出期限を3日前より確認する。
指導の結果	・自ら整理する場面が増えた。 ・メモを活用したが、メモで安心して結果に繋がらない場面もある。	・ルーティンの活動では、経験を重ねていくことで理想とする行動に繋がっている。	・生徒会の自主的な活動の中で意識付けを行ったが、安定した取り組みには至っていない。

目標の評価	・手立てを工夫した継続した指導が必要。 ・持続した意識付けが必要。 ・経験を重ねることで成果が期待される。
-------	---

○成果

- ・意識を持ち取り組んでいる。

○課題

- ・突発的なことにたいする管理が苦手。

○今後に向けて

- ・ルーティンの活動以外でも自分の持ち物や提出物に意識が向かうように工夫や指導が必要。

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：2年生 L

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 否定形の返答ができるようになったが、場面が限られている。 状況に応じた返答や自分の意志を適切に伝える返答ができない。	【背景要因】 経験不足（学習した状況以外で発揮できない、状況に応じた返答の仕方を知らない、自分を表現する語彙が少ない） 【中心的な課題】 新しい状況に対する積極性 日常の会話から返答の仕方や語彙を学ぶ
--	--

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

多くの場面で否定的な返答ができる コミュニケーションの幅を広げる

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(1) 情緒の安定に関すること (2) 状況の理解と変化への対応に関すること (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること (3) 自己の理解と行動の調整に関すること			(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること (3) 言語の形成と活用に関すること (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）		協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）	
	HR活動		HR活動	作業学習
指導内容 （目指す姿）	コミュニケーションの幅を広げる		自分の意志を適切に伝える	「分かりません」が言える 状況に応じた返答ができる
指導方法 （手立て）	・ 日常的な会話の中で扱う話題のジャンルを広げる。		・ 学級全体で活動する際に、指名して意見を発表させたり生徒同士でコミュニケーションする場面を設けたりする。	・ 今まで経験していない場面を設定して新しい返答をする練習を重ねる。 ・ 新しい状況下で返答できない場合は、返答の仕方を指導した後に経験を積ませて身に付けさせていく。

指導の結果	・会話の話題が増えた。	・同じ学級の H ちゃんと楽しそうに過ごしている時間が増えてきている。	・新しい状況の経験を重ね、返答できる場面が増えた。
目標の評価	経験を重ねることで発言回数と内容の幅が増えてきている。		

○成果

- ・現場実習の評価表を昨年度と比較すると実習先でのコミュニケーションでも成長がうかがえた。また、学校祭ではダンスに挑戦しており行動面での積極性が見られた。
- ・必要な場面での意思表示と表現力は少しずつではあるが着実に伸びてきている

○課題

- ・新しい活動に挑戦してみるよう促しても拒絶するときがあり、すべてのことに積極的になれている状態ではない。しかしながら強制的に行動させるのは逆効果と予想されるので、本人の意思を尊重しながら新しい経験を卒業までにどれだけ積みせられるかが課題となる。

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：2年生 M

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 ・自分の考えや意見を伝えられないことがある。 ・活発に意見が出る話し合いは、理解が追いつかないことがある。 ・持ち物を忘れてしまうことがある。 ・自分が嫌だと思うことにも断れないことがある。	【背景要因】 ・自分の意見に自信が持てない。 ・他者にどう思われているか、嫌われないかということや、相手がどう思うかということを考えすぎてしまう。 【中心的な課題】 ・他者からの見え方にとらわれず、自分の考えや意見に自信をもち、それを適切に表現すること。
---	---

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

状況に応じて伝えるべき自分の考えを表現することができる。

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選定された項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(2) 状況の理解と変化への対応に関すること (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること (3) 自己の理解と行動の調整に関すること (4) 集団への参加の基礎に関すること			(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）	
	LHR、放課後	作業学習	学校祭実行委員会
指導内容（目指す姿）	・なりたい自分や、今取り組むべきことを具体的に言語化する。 ・自分の考えに自信をもって教師に伝える。	・リーダーシップを取りながら、作業に取り組む。 ・より良い活動になるように考え、意見を伝える。	・自分の意見を話し合いの場で伝える。 ・与えられた役割に責任をもって取り組む。
指導方法（手立て）	・話した内容を紙に書き出しながら面談を進め、内容を整理しやすくする。 ・考えの根拠を明確にさせる働きかけをする。	・生徒同士で話し合う場面を意図的に設定する。 ・より良くなるにはどうしたら良いかという視点を常にもたせるようにする。	・話し合いの前後に教師が本人の意見を聞き、発言できるよう励ます。 ・スケジュールや仕事を紙面で提示し、確認しやすくする。
指導の結果	・将来について、自分の考えを話したり、自ら行動したりすることができた。	・積極的に話を進めたり、提案したりする場面が増えた。	・はじめは自分の意見を伝えられなかったこともあったが、担当の先生の励ましもあり、自分の意見を伝え、いつもとは違う環境で

	・自分の取り組みに自信を付け、自ら取り組んだことや工夫したことを積極的に伝えてくるようになった。	・話し合い、振り返りの場面では「より良く」という視点を常に持つことができている。実践に更に結びつけられるようにしたい。	責任を持って活動に取り組むことができた。
目標の評価	・自分の考えが深まっている内容、慣れた環境などやや限定的な場面ではあるが、自分の考えをただ伝えるだけでなく、伝える相手や状況に合わせて発言できることが増えた。 ・慣れない環境では、自信がなく、発言が消極的になることもあった。準備することや、事前に教師と相談することで克服できることも多いことを本人と確認した。今後に生かせるよう、繰り返し確認していく。		

○成果

- ・振り返りの場面では、「自分のこと」だけでなく「クラスとして」や、「今」だけでなく、「1学期と比べて、1年生の時と比べて」など、考えに広がりが見られるようになった。
- ・現場実習では自主的にチェックリストを作成し、自分を高める工夫をすることができた。

○課題

- ・慣れない環境だと緊張感が増し、話についていけなかったり、考えがまとめられずに発言できなかったりすることがある。
- ・自分の課題や頑張りたいことについて考え、言語化する力は高まった。自分の考えを最大限実践できるようになることが今後の課題。

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：2年生 N

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 忘れっぽい面がある 集中力が途切れる （本人もよく、作業の反省で書いている。） トイレ行くことが多い。	【背景要因】 人に助けってもらうことになれているため、自分でやるという意識が弱い。 【中心的な課題】 自分の力ではじめから最後まで取り組む。 分からないことは自分で確認する。
---	---

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

- ・自分自身の考えを相手に伝えることができる。
- ・様々な場面において、最後まで丁寧に活動をやり遂げることができる。

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1) 生活の (5) 健康 状態の維持・改善に 関すること	(2) 状況の理解と変 化への対応に関す ること (3) 障害による学習 上又は生活上の困難 を改善・克服する意 欲に関すること	(1) 他者とのかわ りの基礎に関す ること (3) 自己の理解と行 動の調整に関す ること			(1) コミュニケー ションの基礎的能力に 関すること (4) コミュニケー ション手段の選択と活 用に関すること (5) 状況に応じたコ ミュニケーションに 関すること

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）	
	ホームルーム	各教科	作業学習
指導内容 （目指す姿）	話し合いに積極的に参加し、 意見を述べる。	やるべきことに1人で 取り組み、自信をつけ る。	やるべきことに取り組み、 最後まで丁寧に活動をや り遂げる。
指導方法 （手立て）	話しやすい話題を提供する。	説明を理解しているか、 確認し課題に取り組め るよう配慮する。	役割を与え、自分の力で やり遂げる機会を設ける。
指導の結果	友達と同じではなく、自分の 言葉で意見を言える機会が増 えている。	課題を先延ばしにせず、 その場で集中して取り 組むようになってきた。	接客など、落ち着いて1人 で対応することができた。

目標の評価	・自分で考え、判断し、発言することができるようになってきている。 ・いろんな情報を自分のことと捉え、自分から活動する場面が増えてきている。
-------	--

○成果

- ・役割を担ったり、注目されたりすることで自分の立場を意識し、活動できるようになってきている。
- 一斉指示も自分のことと捉えて、活動することができることも評価できる。

○課題

- ・友達がいると人に頼ったり、譲ったり、受け身になってしまうことが、まだ見られる。今後の学習活動の中でもいろんな経験を積んで、自信をつけ、より積極的に活動できるようになってほしい。

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：2年生 ○

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 ・通学のバスに遅れると不機嫌になったり、不満を言ったりしながら登下校してしまうことがある。 ・身の回りの整理整頓、着替え方法のこだわりを優先してしまい、時間に遅れてしまうことがある。 ・分からないことがあると教科担当教師に聞くことができるようになったが、理解できないことがある。 ・挨拶や丁寧な言葉遣いができるが、疲労や不安があると忘れてしまうことがある。	【背景要因】 ・理解できずに困っていることを周囲に分かってもらえない。 【中心的な課題】 ・イメージする力が弱く情報の統合、順序立てが難しい。 ・相談して解決できた経験、成功体験が少なくあきらめてしまいがち。
---	---

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

・準備や移動の時間を考えて、開始時間に間に合うよう行動する ・分からないことや、困ったことを相談することができる

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(5) 健康状態の維持・改善に関すること	(2) 状況の理解と変化への対応に関すること (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること (3) 自己の理解と行動の調整に関すること (4) 集団への参加の基礎に関すること	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること		(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）	
	LHR、放課後	教科の学習	総合的な探求の時間
指導内容（目指す姿）	・日誌やメモを活用し、落ち着いて行動できる。 ・自分の気持ちを伝え、相手の気持ちを考えることができる。	・分からないことを質問し、何度も取り組んでみる。 ・苦手なことは教師や友達に相談しながら取り組む。	・自分の考えを深め、発表することができる。
指導方法（手立て）	・日誌で自分の行動を振り返り、より良い振る舞い方について話し合う。 ・相談や話し合いで解決できる経験を増やす。	・繰り返し取り組む時間を確保する。 ・少人数で集中できる環境に配慮する。	・良いところと改善できそうな所を伝え、成功体験を増やす。
指導の結果	・自分の思いを話す機会が増えた。	・分からなくてもあきらめずに聞くことが増えた。	・自分から関わり、発言することが増えた。

目標の評価	・生徒自ら開始時間を意識して準備することが増え、時間に間に合うことで達成感を得ている。 ・困ったことを自分から相談すること、教師のアドバイスを受け入れることが増えた。
-------	--

○成果

- ・帰宅後や朝の日常生活を話し合い、困っていることや改善方法をその都度考えられるようになった。通学のバスに遅れたくない気持ちを登校後に受け止め、不満を言う姿を客観的な視点で考えられるように個別、または、仲間同士で話し、よりよい行動パターンを伝え続けている。
- ・時間を優先して、身の回りの整理整頓を行うことが増えた。遅れたときに注意を受けても、素直に理由を伝えられるようになった。
- ・「理解に時間がかかることが、分かるようになりたい」ことを自分の特徴であり良さもあるととらえるようになった。
- ・相手に伝わる挨拶や丁寧な言葉遣いの大切さを、現場実習で理解できた。

○課題

- ・イメージする力が弱く情報の統合、順序立てが難しい面を、卒業後の就労先にも支援していただけるよう引き継いでいく。
- ・自分の気持ち、体調、家庭のことを相談できる体制を引き続き整えていく。

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：2年生 P

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 ・50 分間の授業の中で集中力が切れてしまうことが多々ある。 ・苦手な授業や移動教室の際にトイレに行き、遅れることがある。 ・友達や教師に粗暴な言動がある。 ・友達に不適切な関わり方をしてしまう。	【背景要因】 ・愛着 ・成功体験の少なさ 【中心的な課題】 ・成功体験不足からくる自信のなさ ・交友関係の築き方に課題がある
--	---

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

・様々な状況で求められる適切な行動をとることができる。 ・高校生として適切な友達との距離感を理解することができる。
--

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(1) 情緒の安定に関すること (2) 状況の理解と変化への対応に関すること (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること (2) 他者の意図や感情の理解に関すること (3) 自己の理解と行動の調整に関すること (4) 集団への参加の基礎に関すること			(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2) 言語の受容と表出に関すること (3) 言語の形成と活用に関すること (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）		協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）	
	LHR、社会生活	学校祭	他の授業など（グループ） 各教科	
指導内容 （目指す姿）	・適切な距離感を理解し、友達と関わるができる。	・環境、学習集団が変わる中でも場面に応じた言動をとることができる。	・トイレにこもるのではなく、適切な気持ちの安定を図る方法を理解し、実践できる。	
指導方法 （手立て）	・指導内容についてイラストを交えながら説明することで視覚的にもわかりやすいようにする。 ・静かな場所で落ち着いて話すことができるよう場面設定を行う。	・学習集団が変わる前後に適切な行動について確認を行う。 ・人との距離感を具体的（腕一本分の距離）に示し、体感的にもわかりやすいようにする。	・気持ちの安定を図りたいときの正しい手順と場所の確認を行う。	

指導の結果	・就労形態等についてイラストや図を用いて説明することで、自らの現状と照らし合わせて考えることができた。 ・場所を変え、落ち着いた環境で話をするすることで指導を受け入れることができた。	・「通し練習」など自分の出番があるものについては、見通しを持って、学習に取り組むことができた。しかし、休み時間などは友達に対して不適切な関わり方をしてしまうことがあった。	・自らの精神状態や集中力を判断し、「漢字プリントに取り組みたい」など代替案について授業担当の先生と相談することが数回できた。
目標の評価	・様々な状況で求められる適切な行動について少しずつ理解することができた。 ・高校生として適切な友達との距離感についてその場での直接指導と振り返りの場面を設けることで少しずつ理解することができた。		

○成果

- ・少しずつではあるが、自らの課題について自己理解が進んできた。
- ・卒業後の進路先としてこれまでは「一般就労」と答えていたが、自らの現状を何度も一緒に振り返りを行い、課題等を確認することで、まずは「B型」から「A型」とステップアップを目指し、最終的に「一般就労」を目指すという考えに落ち着くことができた。

○課題

- ・これまでの経験上、何か失敗をしたときには隠したり、虚偽の説明をしたりすることでその場を言い逃れしてきた。今一度、「ダメなことはダメ」というスタンスを崩さず、指導を継続していきたい。

3 学年

対象生徒：Q～X 計8名

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：3年生 Q

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 ・初めての環境、初めての人との関わりは消極的になる。 ・慣れてくると時折、同性、異性とも関わり方が過度になり、相手を不快にさせてしまうことがある。 （距離が近い、ボディタッチをしてくる。他者依存の強いコミュニケーションなど） ・後日、個別に確認すると自分の行動について振り返り、適切なコミュニケーションの方法について考えることができていた。	【背景要因】 ・生育環境 （入退院を繰り返していた。人好きであり、集団に入るためなのか、自分に対して過度な関わりを皆が指摘したり、笑ったりする場面を求めている傾向がある。小中時もそのような友達とは、そのような関わり方だった様子） 【中心的な課題】 ・慣れてきた人の関わり方が過度になる。 （依存度が強い、距離が近い）
--	--

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

・教師や友達と適切な距離を保ち、自ら良好なコミュニケーションをとることができる。

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選定された項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(2) 状況の理解と変化への対応に関する事	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事 (3) 自己の理解と行動の調整に関する事 (4) 集団への参加の基礎に関する事			(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場 (目指す姿)	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）	
	LHR・社会生活	総合	各教科
指導内容 (目指す姿)	・行動の課題を振り返り、適切な言動を考えて、次の場面で表現することができる。	・適切なコミュニケーションで、各活動に参加することができる。	・適切なコミュニケーションで各授業に参加することができる。
指導方法 (手立て)	・過度な関わりがあった場合、具体的に指摘し、適切な関わりにするよう伝える。 ・友達の強すぎる指摘があった場合は自他尊重のコミュニケーションの必要性を伝えるとともに、時間があれば考えを深めさせる場面を設ける。	・過度な関わりがあった場合、同左のような手立てをとる。	・過度な関わりがあった場合、同左のような手立てをとる。 ・コミュニケーションの学習を設定する場面ではTPOがなぜ大切なのかを具体的に伝える。

指導の結果	・指導時は自分の言動や課題について適切に考えることができたが、1度顕著に不適切な言動をする事があった。	・指導後は言動を考えた行動場面が増えた。	・指導後は言動を考えた行動場面が増えた。
目標の評価	・後期当初は各学習場面において、行き過ぎた場面が若干、散見され、場面指導を実施することがあった。学校祭時に問題行動（友達に対する顕著な不適切な言動）があり、個別指導を実施した。その後は言動を意識して活動する場面が増えたが、気持ちが高揚すると過度な言動をしてしまう場面があるので、指導の継続が必要と考える。		

成果

- ・2年次に比べ、面談時には自分の言動について適切に振り返り、課題についても理解し、今後、意識したり、注意したりしなければいけない部分についても考えることができるようになった。

課題

- ・以前よりは減少したが、活動場面では、気持ちが高揚する場面などでは、依然として過度なかわりをする場面が散見される。指導の継続が必要と考える。

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：3年生 R

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 - 読み書きが苦手。 - 自分から発言できない。 - 言われていることを理解できない。 - 複数の指示を理解、対処できない。 - 現場実習で休んでしまう。 - 優柔不断で物事を決めることができない。	【背景要因】 - 理解できないことが多い。 - 周りが先回りして支援された中で生活してきた。 - 何もしないことで傷つかないことを学習。
	【中心的な課題】 物や人などの関係性の中において、因果関係が分かる。

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

- 自分が人の役に立つ場面と、人に助けられている場面を実感しながら、社会の中の自分の役割を果たしたり社会人としての振る舞いを意識したりする。 - 自信を持ち、持っている力を発揮したり、苦手な部分にも目を向けたりして今頑張るべきことを積極的に行う。
--

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選定された項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること (5) 健康状態の維持・改善に関すること	(1) 情緒の安定に関すること (2) 状況の理解と変化への対応に関すること (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること (2) 他者の意図や感情の理解に関すること (3) 自己の理解と行動の調整に関すること	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること		(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）	
	LHR SHR	各教科	LHR、各教科
指導内容（目指す姿）	自分の得意なことや苦手なこと、必要な手立てや適した環境について理解を深める。	分からないことや不安なことは自分からきちんと質問したり準備したりする。	人のために行動したり、人からしてもらったことに感謝し、積極的に行動する。
指導方法（手立て）	- 自分の取り組み状況を振り返る場面を毎日設定する。 - 面談し、学んだことや感じたことについて整理する。	- 毎日振り返りを行う。 - 各教科の先生方からもフィードバックを行う。	- 友達と教え合う場面を設定する。 - できた時にすぐ称賛する。 - 具体的に説明する。

指導の結果	・不安や緊張で体調を崩しやすいことを理解し、前向きに考えようとするようになった。	・テストのために家で勉強し、分からなかったことを質問できるようになった。 ・不安なことの相談も担任にできた。	・「ありがとう」という言葉をしっかり伝えられるようになった。また、自分からみんなのいやがるような掃除の担当をしたりするようになった。
目標の評価	・決められた自分の役割はしっかりと取り組むことができた。自由度のある分担場面でも自らみんなの好まない仕事を選んだり、周りの人との関係性やバランスを考えたりしながら言動することができるようになった。 ・自分から友達に関わっていこうとする姿が増えた。不安や緊張が大きいときには相談し、その中で自分で解決できるように行動してみようと思えるようになった。不安や緊張から学校を休みがちになることも理解し、休まないように強い気持ちを持つことが大事だと思えるようになり、「思っていたより大丈夫。」など、前向きな言葉を自分で言い聞かせながら乗り越えることができるようになってきている。		

○成果

- ・周りとの関係性を考えることができるようになってきた。
- ・他者のせいではなく、自分でなんとかしなければならないと思えるようになってきた。
- ・相談し、相手のアドバイスを受け入れ自分で実践してみようと思えるようになった。
- ・前向きな言葉がけが有効

○課題

- ・まだ安定感があるとは言えない。新しい環境でも、相談できる人を見つけ今強くなってきている自分を持ち続けてほしい。
- ・厳しい口調のアドバイスや注意、叱咤激励などは、前向きにとらえることは難しい。

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：3年生 S

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 ・すぐにあきらめてしまう。・分からないと言えない。 ・楽な方に逃げる傾向がある。 ・人を信用できない（否定から入る）。 ・少しずつ弱音を吐けるようになってきたが、甘えられるようになるまで時間が掛かる。 ・分かることしか取り組まない、その結果知識や経験が広がらない。	【背景要因】 ・施設で育ってきた。 ・生活経験が不足、視野が狭い。 ・愛着形成不足。 【中心的な課題】 ・自分の気持ちを発信できる、また、発信して良いのだという実感をもてる。 ・自信をもって行動できる。
---	---

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

・多くのことに挑戦することができる。 ・自分の気持ちをコントロールしながら友人関係を構築することができる。
--

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(1) 情緒の安定に関すること (2) 状況の理解と変化への対応に関すること (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること (2) 他者の意図や感情の理解に関すること (3) 自己の理解と行動の調整に関すること (4) 集団への参加の基礎に関すること	(1) 保有する感覚の活用に関すること (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること		(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2) 言語の受容と表出に関すること (3) 言語の形成と活用に関すること (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）	
	LHR、SHR	各教科授業・日常生活	学校行事
指導内容（目指す姿）	・自分の気持ちをこまかさず、受け止めることができる。 ・他者を認め、自分の真意を話すことができる。	・友達の言動を正しく判断し、自分の気持ちとの差を受け止めることができる。 ・新たな挑戦ができる。	・話し合いの中で、自分の気持ちを伝えることができる。
指導方法（手立て）	・自分の気持ちを話しても大丈夫だと安心感を持たせる。 ・自分の感情をコントロールし、その時の気持ちを言葉にすることができる。	・友達と自分の気持ちのどちらも尊重することが必要だと実感させる。 ・経験を積み重ねることが自信に繋がると実感させる。	・話し合いの意見を取りまとめる役割を担い、他者の意見を認めることで、自分の気持ちを話しやすいとする。

指導の結果	・日記を書くことで自分の気持ちを振り返り、冷静に受け止めることができるようになった。	・友達の言葉を丁寧に聞くことで、自分の気持ちとの差を感じることもできた。	・周囲の状況を判断し、自分の意見を話せるようになってきた。
目標の評価	日記を書くことで自分の気持ちを整理し、冷静な判断をしようと努力することができるようになった。同時に面談や普段の生活の中で会話を多くすることで不安を軽減することができ、新しいことに挑戦する気持ちを持つことができた。		

○成果

- ・友人とのトラブルにより、自分の言動、他者の言動について冷静に考えるようになった。自分の気持ちをごまかさずに受け止めることで、教師からのアドバイスを素直に聞き入れることができるようになった。
- ・日常生活の中の何気ない会話を増やし、常に見守っている姿勢を示すことで、自分の気持ちを話しても大丈夫だと安心感を持つことができるようになった。
- ・教師の支援を受けながら、友達の言葉を丁寧に・前向きに聞く事で、勝手な判断をせずに受け止めることができ自分の気持ちとの差を感じることもできた。
- ・自分の言動の一つ一つを言葉にして教師に伝えることで、自信を持って行動できるようになった。

○課題

- ・周囲の気持ちを気遣うことで、自分の気持ちを発信することを我慢してしまうことがある。
- ・我慢しすぎることにより、一気に気持ちが吹き出してしまい、気持ちを整理する時間が必要な場面がある。
- ・新たなことにも挑戦したい気持ちを持っているが、周囲と協力する場面では、トラブルを極端に嫌がり、発言を我慢したり、その場から去ることを優先してしまう。

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：3年生 T

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 ・体力や筋力がない。・疲れやすく、発熱する。 ・言葉の意味を理解しないまま使うことがある。 ・周りの変化に敏感に反応し、集中できない。 ・立候補を募ると考えずに立候補する。 ・失敗や間違いを指摘されると無言、無表情になる。 ・朝起きるのが苦手で遅刻が多い。 ・作業はどんどん雑になる。・急に笑い出す。	【背景要因】 ・経験の不足 ・段階的な自己理解 ・理解できないことが多い。 ・母子関係
	【中心的な課題】 ・自己理解できていない。 ・失敗や間違いを認めることができない。

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

・自己を理解し、その状況に合った行動をとることができる。

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(2) 状況の理解と変化への対応に関する事	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事 (3) 自己の理解と行動の調整に関する事	(1) 保有する感覚の活用に関する事		(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事 (2) 言語の受容と表出に関する事 (3) 言語の形成と活用に関する事 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）	
	LHR・SHR・社会生活	作業学習	各教科
指導内容（目指す姿）	・時間や学校のルールを意識することができる。	・その場の状況を理解し、自分の行動や言動について、考えることができ、それを他者に伝えることができる。	・活動に充実感を持つことができる。 ・挑戦するときは自分に可能かどうかを判断できる。
指導方法（手立て）	・行動の前にルールや規則を確認する。 ・言葉にして、意識を高める。	・体力や筋力を考え、作業を進める。 ・困ったときの対処法を伝え続ける。	・活動等の説明を十分に、わかりやすく伝え、理解したかどうかを確認する。
指導の結果	・多くの先生方に、時間等を指導され、意識することができたが改善されていない。	・指導を受けると、落ち込むが、立ち直りが早くなった。	・自分の生活を振り返り、自分がその仕事ができるかを判断できた。

目標の評価	・指導された言葉を受け止め、自分がどう思っているか、これからどうしたらよいかを、他者に伝えることができた。 ・自分に合った仕事を理解し、役割を果たすことができた。
-------	--

○成果

- ・今までは、提案される役割すべてに、志願し、自分の力量を考えることがなかった。多くの先生方に学校生活の指導を受け、自分はこの仕事が可能かどうかを判断できるようになった。
- ・指導されると、固まってしまうが、立ち直りが早くなった。

○課題

- ・ルールを守ろうとする意識が続かない、または忘れてしまう。

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：3年生 U

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 ・環境に慣れることに時間がかかる。 ・初めての場所や人の中に入ることに時間がかかる。 ・活動前に、不安が強くなり動けなくなる。 ・不安や心配事を自分の言葉で表すことが難しく、 ・男性への不安がある。 ・他者の感情に敏感で、他者が怒られていると、不安になる。 ・不安が体調にでやすい。	【背景要因】 ・中学校まで、同級生など人の変化が少ない中で過ごしてきた。 ・困った時に大人が対応してきた。 ・母に依存傾向 ・自分への理想が高い
	【中心的な課題】 不安なことを自分の中で処理しきれない。

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

自分の気持ちを言葉にして相手に伝えることができる。

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(5) 健康状態の維持・改善に関する事	(1) 情緒の安定に関する事 (2) 状況の理解と変化への対応に関する事 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事 (3) 自己の理解と行動の調整に関する事 (4) 集団への参加の基礎に関する事	(2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事		(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事 (2) 言語の受容と表出に関する事 (3) 言語の形成と活用に関する事 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）	
	LHR、SHR	各教科 （学習グループ）	社会生活、 行事（学年内）
指導内容 （目指す姿）	自分の考え方や行動の傾向を見つけ、誰に対しても伝えることができるよう伝え方を練習することができる。	他者に対して話し合いの中で自分の考えを自分から話したりする。	自分の意見を同級生（学級以外の友達）に伝えることができる。
指導方法 （手立て）	・定期的に面談を行い、考えを整理する時間を設ける。 ・1日の振り返りを教師と一緒にを行い自分の気持ちと体調を把握できるようにする。 ・スクールカウンセラーと連携し、気持ちの整え方等について学ぶ機会を設ける。	・身近な教師が仲立ちになり、自分の考えを伝える場面を設定する。	・身近な教師が仲立ちになり、自分の考えを伝える場面を設定する。 ・ホームルーム以外の学習集団の中で、自分の意見を言う機会を設ける。 ・他者の意見をまとめるなど役割を与え、他者との関わりを増やす。

指導の結果	・教師だけでなく、友達に対しても、自分の気持ちを伝えることができた。	・学習グループの中では、周りの意見を聞くことは今までと変わらず行っているが、違うことは違うと言葉にして周りに伝えることができるようになった。	・話し合いの場面では、ホームルーム以外の生徒がいる中でも自分の意見を伝えることができる場面が増えた。
目標の評価	・大人に対しては、自分の気持ちを伝えることが増えてきた。 ・クラスの友達とトラブルがあったときに、一緒に気持ちの整理をすることで、自分からできることとできないことを伝えることができた。また、他の生徒の気持ちを聞くことがきっかけで、友達に対しても自分の気持ちを伝えることが増えた。 ・プロジェクトリーダーでは、活動時期の出席停止の期間も長く不安なことを事前に担任に伝えることができた。ただ、やりたい気持ちをしっかりと持ち、取り組むためにできることを相談することができた。		

○成果

- ・これまで、不安になったときは周りに察してもらい自分がどうしたいか伝えたりすることが少なかったが、不安のレベルや体調のレベルなどを振り返り、レベルによってできること・できないことを整理しておくことで、「全部できない」と帰宅してしまうことが少なくなり、「今は〇〇だから～まではできそう」「〇〇だから～は手伝って欲しい」など気持ちを伝えながら、活動に取り組むことが増えた。
- ・周りの目を気にして、友達に対しても遠慮している部分があったが、相手のために伝えた方がよいこともあることや、自分の気持ちを優先してもよい（わがままということではなく）ことがあることを伝え、実際に見本で見せたり、周りの考えを聞いたりすることで、我慢せずに言えることが増えた。

○課題

- ・3年間という時間の経過により環境や人に慣れた部分も大きいので、新しい環境になったときに関係性ができるまで、気持ちが崩れたときに自分の気持ちを伝えられない可能性がある。

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：3年生 V

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 ・授業での話し合いでは、特に問題はないが、学級の生徒と必要意外なことを自ら話すことが少ない。 ・関わりの少ない人に対して、緊張してすぐに話すことができない。	【背景要因】 ・他者とのかかわりをもとうとするが、その方法が十分に身につけていない。 ・学習や生活等で特に問題がなかったため友達の関係性を築く学習などが少なかった。
	【中心的な課題】 ・本人に尋ねても友達と言える人が少ない。

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

・自ら学年の友達に話しかけることができる。

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選定された項目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(2) 状況の理解と変化への対応に関すること	(2) 他者の意図や感情の理解に関すること (3) 自己の理解と行動の調整に関すること	(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること		(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）	
	LHR、社会生活、職業	作業学習	他の各教科(グループ)の授業
指導内容（目指す姿）	・他者に対しての伝え方、関わり方を学習することができる。	・他者に対しての報告、連絡、相談などを行うことができる。	・他者に対して話し合いをしたり、話をしたりすることができる。
指導方法（手立て）	・少しずつ他の生徒と話ができる場面を設定する。 そのやりとりの方法が定着するよう相互にかかわり合う素地を作る。 ・やりとりの方法を少しずつ増やしていく。	・少しずつ他の生徒と会話ができる場面を設定する。 ・やりとりの方法を少しずつ増やしていく。 ・具体物や視覚的な情報も用いて分かりやすくする。	・身近な教師が仲立ちになり、少しずつ他の生徒と会話ができる場面を設定する。
指導の結果	・特定の教師に自分の気持ちを話すことができた。	・本人も、やりとりの必要性を感じるようになった。	・話し合いの場面では、緊張してなかなか話せないことがほとんどなくなり、自らの考

		・「報告・連絡・相談」は、できるのだが、何をすればいいのかわからない部分があるようだ。	えなどを話すようになってきた。
目標の評価	・教師が仲立ちとなり生徒と話ができる場面を設定した。学校祭プロジェクトリーダーになったことがきっかけとなり、自信を持つことができた。まだ自ら話しかけることは少ないが、学年時のグループ活動時に自らの意見を発表できるようになった。		

○成果

- ・本人のやりたいことや頑張りたいことを面談や普段の会話等を確認しながら進めることができた。
- ・学級スタッフだけでなく目標を学年団の教師が意識し、行事や授業等でアプローチを行うことができた。また、本人の様子等を学級スタッフに伝え、共通理解して進めることができた。

○課題

- ・事例生徒が学級一名だったため、学年内で意識して取り組めたが学級全員となるとアプローチの仕方や様子など共通理解する時間の確保が課題である。

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：3年生 W

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 - 相手の気持ちを考える前に、先に思ったことをそのまま言葉に出してしまい、誤解されやすい。また、発言がずれていることがある。 - 初めてのこと、慣れないことに対して、不安で気持ちがいっぱいになり、落ち着かなくなる。 - 不安や悩みを相談する相手やタイミングを考えてしまい、行動に移せない。 - 自分の気持ちの状態がわからない。	【背景要因】 - 経験不足 - 特に問題を起こすわけではないので、大人の手があまり掛けられていない。 - 母子関係
	【中心的な課題】 - 相手の気持ちを考えない、ストレートな言葉 - 不安や悩みの処理の方法

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

- 相手の気持ちを考えた言動をとることができる。 - 心配なことや不安なことに対して、解決する方法を見付けることができる。
--

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(1) 情緒の安定に関すること (2) 状況の理解と変化への対応に関すること (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること (2) 他者の意図や感情の理解に関すること (3) 自己の理解と行動の調整に関すること	(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること		(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2) 言語の受容と表出に関すること (3) 言語の形成と活用に関すること (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び（教育活動全体で取り組む自立活動）	
	LHR、SHR、休み時間	作業学習	各教科
指導内容（目指す姿）	他者への関わり方、自分の気持ちの整理の仕方を見付けることができる。	他者の気持ちに立ち、思いやりをもって取り組むことができる。	授業内容や他者の言動を、自分に置き換えて考えることができる。
指導方法（手立て）	- 自分の今の心の状態と、本人が無意識にしている行動（教師との距離が近くなる、周りのミスを指摘することが増える、など）とがつながるよう、整理する。 - 自己理解を促し、取扱説明書を作成してみる。他者に対する理解についても、一緒に考えてみる。 - 友達とのやり取りを振り返る。	- 他者の気持ちを考えず、マニュアル通りの行動をしたときには、必要に応じてどうしてそういう言動をとったか確認を行う。 - 他者に伝える、話を聞く、気持ちを考える、などの他者目線について一緒に考える。	学習内容や、教師、友達の言動に対して、自分に置き換えて考えてみるよう言葉掛けをする。

指導の結果	自分から相談に来ることもあるが、悩みを抱えていそうなのに来ないときはこちらから声を掛け、自分の心の状態と向き合うよう促すことで、気付くことができた。	他者の気持ちを考えた行動について意識することが増えたが、考えた行動であってもとんちんかんなときがあり、その都度適切な対応について伝え、学んでいた。	教師と他の生徒とのやりとりを聞き、「こういうときはこうしたらいいんだ」と気付いたり、自分の行動を振り返ったりして、真似をすることができた。
目標の評価	会話の機会を増やしたことで、相手の気持ちを考えた言動をとることの必要性や、悩みなどを相談することで気持ちが楽になったり解決につながったりすることを理解することができてきた。しかし、それをどのように行動に移すべきかについては、教師や友達の支援がないと難しい。		

○成果

- ・面談や日常の会話など関わりを増やしたことで、自分から気持ちを伝えることが増え、不安なことがあると保健室やトイレに逃げたり、自傷行為をしたりすることが減った。少しだけタフになった。
- ・その都度指摘したことで、非を認めたり、謝罪したりすることが増えてきた。
- ・教師や友達、実習先では職員からのきっかけ（言葉、動きなど）がないと、行動に移せていないことを指摘し、振り返りを重ねることで、なんとなく分かってきた。

○課題

- ・「相手の気持ち」を考える以前に、「自分の気持ち」に気付けなかったり、「自分の気持ち」を放っておいたりすることが多い。トラブルの多さから「相手の気持ち」について主に伝えてきたが、「自分の気持ち」を大切にし、重きを置いて指導する必要性を感じた。
- ・日常の行動や、叱られる、注意されるなどの関わりを経験不足から積み重ねができていない。表面上仕事ができそうに思われ放っておかれがちだが、正しい自己理解につなげ、今後に向けての引き継ぎを丁寧に行っていきたい。

個別の指導計画（校内研究用）

生徒名：3年生 X

＜実態把握～指導すべき課題の整理＞

※各教科等の学びを困難にしているものは何か「指導の対象」を焦点化

【学習上、生活上の困難】 - 自分の興味の範囲外のことに無関心で、必要以外の会話をすることが無い。 - 興味あることに饒舌になり空気を読まずに発言することがある。 - 集合場所、時間、など必要なことを確認しようとしていない。興味が無いので確認しようとしていないことが起因と思われる。	【背景要因】 - 生育歴 - 問題を起こすことではないので、指導されずにきた。 - リーダー的な活動など経験が無い
	【中心的な課題】 - 他者とのコミュニケーションの能力 - 必要事項の確認

＜自立活動の目標＞ ※段階を考え「今」指導すべき（達成すべき）目標を設定

- 他者とのコミュニケーション能力を上げる。 - 必要事項を確認できるようになる。
--

＜指導目標を達成するために必要な項目の選定＞

選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
			(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事 (3) 自己の理解と行動の調整に関する事 (4) 集団への参加の基礎に関する事			(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事 (2) 言語の受容と表出に関する事 (3) 言語の形成と活用に関する事 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事

＜各指導の場における指導内容・方法の設定＞

指導の場	個別最適な学び（個人面談）	協働的な学び （教育活動全体で取り組む自立活動）
	LHR、SHR、休み時間	各教科等
指導内容 （目指す姿）	- 雑談など自然な会話ができる - 必要なことを確認できる	グループワークなどでの自発的な発言ができる。
指導方法 （手立て）	- 興味のあることへの会話参加禁止、相手の興味がありそうな内容の話題を選択して雑談するノルマを設定。 - 必要なことのチェックリストを確認させる。	- 自発的な関わりを目標として設定する。 - 相手の発言内容を聞いてから返答するよう指導する。 ・
指導の結果	- 相手の話題に合わせた会話を意識出来るようになってきた。 - 時間、場所、など必要な内容がそれぞれの場面で違うため、場面に合わせたチェックリストを本人が作成するには至らなかった。	- 自分から積極的に発言することができた。 - 相手の内容に沿った、論点の合う会話にならない場面もあり経験が必要だった。

目標の評価	・独り言、自分の興味のある話題のみを選択するなどの行動が減り、相手の会話に合わせることができるようになってきた。分別をつけることができるようになったため、好きな話題を出すことを許可した。 ・時間、場所、持ち物など、場面に合わせて何が必要なことなのかを本人が理解することがむずかしく、経験が必要になる。
-------	---

○成果

- ・コミュニケーション面での課題は改善の傾向があり、家庭とも連携することで意識付けすることができた。
- ・必要なことについては、チェックリストがある場合、確認することができた。

○課題

- ・応用が必要な場面やイレギュラーに対応することは難しく、継続した取り組みが必要になると思われる。